



知的資産 経営報告書

2012 年度版



目 次

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

1. 代表から皆様へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 経営理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
3. 信楽焼き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
4. 事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - ①大物ろくろ成形品
 - ②手ひねり成形品
 - ③機械ろくろ成形品
 - ④型押し成形品
 - ⑤共通の作業
5. 当社の知的資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 13
6. 今後の事業展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
7. 会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22
8. 問い合わせ先・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23

1. 代表から皆様へ

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

歴史の紐を解けば、聖武天皇の頃より始まり日本六古窯の一つに数えられる信楽焼。豊かな自然に囲まれた伝統の地信楽で焼物に携わってまいりましたが、信楽焼独特の土味が醸し出す温かみ・癒しをもっと広く、より多くの人々に知ってもらえればという思いから勤め先を辞め起業致しました。

起業からの年月はまだ浅くまだまだ未熟な点がありますが、それ以前より培ってきた技術・知識・経験を最大限に活かし、お客様のニーズに応える物作りに励んでおります。



私共は、**大物陶器**を中心に事業を展開し、ケースに応じて大物ろくろ成形・手ひねり成形・型押し成形・機械ろくろ成形といった様々な成形技術で製造しております。現在信楽では**大物陶器**の製造がたいへん少なく、その中でも特に大きい物を製造する事業所になりますと、さらに限られております。

それ故に、**大物陶器にこだわり**更なる技術の向上を目指し物作りに励むことこそが私共の進む道であると考えております。

昨今、たいへん厳しい景況ではありますが、常に初心を念頭に置き、どんな物が必要とされているのか、自分達に何が出来なのかを考え時代に合った信楽焼の良さを伝えられる物作りに励んでまいります。

陶器屋

代表 高原 誠治

2. 経営理念

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問合わせ先

信楽の伝統の継承

信楽に生まれたこと、人との出会い、すべてが私たちの製品づくりに繋がっています。
一期一会の気持ちを大切に、すべてのお客様の満足した笑顔を見るために一つ一つの製品を作っています。

そして、一度引き受けた仕事はどんなに困難でも、最後までやり遂げることを基本に仕事に取り組んでいます。

モノづくりへの想い

陶器屋では、常にお客様の要望を第一にモノづくりを行っています。お客様が求める形、色、デザイン、風合いなどを、優れた技術で形にしていきます。また、特注品から量産品まで、お客様の要望にお応えできる体制を整えています。

「自分が買わない製品は作らない」をモットーに見えない部分までこだわったモノづくりを行っています。

信楽への想い

信楽の地に生まれたことに感謝し、地域の皆様とのかかわりを大切にしています。

当社では信楽でも数少ない「大型の狸」を製作しています。これは「信楽といえば狸」というイメージを大切にしていきたいとの考えからです。

3. 信楽焼き

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

①信楽焼の歴史

奈良時代に聖武天皇が信楽の地に紫香楽宮を造営され、この地に大仏を建立しようという「大盧舎那仏造立の詔」が発せられました。これが須恵器、土師器の流れを汲んだ、無彩釉の陶器づくりへと発展し現在の信楽焼発祥となったといわれています。

日本六古窯の一つである信楽焼は、その後、鎌倉時代中期から穴窯によって壺、甕などのやきものづくりがはじめられ、室町、桃山時代の茶道の興隆とともに茶人に愛用され、信楽焼はその名を広めていきました。江戸時代以降は、庶民生活に密着した陶器が大量に生産されるようになります。近年は、庭園陶器、食卓用品、花器類などあらゆるやきものが年々開拓され、日本を代表する陶器産地として、大きくクローズアップされています。

1976年（昭和51年）に国から伝統的工芸品の指定を受け、今日に至っています。

②信楽焼の特徴

信楽焼の特徴は、土中の鉄分が赤く発色する「火色」や窯の中で炎の勢いにより器物に灰が降りかかる灰かぶりの現象による「ビードロ釉」の付着、窯の灰に埋まり黒褐色になる「焦げ」など、炎が生み出す独特の焼き上がりです。また、古信楽にみられる、表面の素地が荒く、細かな石粒などが多く含まれていることも大きな特徴です。

また、「なまこ釉」など、絵付けの商品が少なく、大物づくりの成形、乾燥、焼成技術なども信楽焼の代表的な特徴です。

③狸の置物

信楽焼の狸の置物の歴史は、明治時代からと言われています。縁起物として喜ばれ、狸が「他を抜く」に通じることから商売繁盛と洒落で店の軒先に置かれることが多くなっています。今では狸の置物は、信楽の代名詞のような存在となっていますが、大型の狸の生産は年々少なくなっています。



当社製作の大型狸

④大物ろくろ

大物ろくろ成形は、器物の底部と上のものを切り離して作り、上のものを半回転させて下のものにつけて成形していきます。大物陶器とは縦、横、高さが30cm以上の陶器の総称で、通常の陶器とは異なる高度な技術が必要となります。大物ろくろ成形の技術を持つ伝統工芸士は数少なく、陶器屋の代表である高原誠治はその数少ない大物ろくろ成形の伝統工芸士です。

4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

①大物ろくろ成形品

陶器浴槽（丸型）、プランター等、大物陶器と呼ばれる製品の中でも特に大きい製品を中心に展開しています。図面から書いて生産しています。



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

①大物ろくろ成形品＜生産工程＞

大物ろくろ製品は、大きさに応じて複数のパーツに分けて成形し、後でつないでいくため、下記の

①陶土準備②根地付け③成形の工程を数回終えて、④つなぎに進み、⑤仕上げを行います。

陶土準備

大物成形品用の土を土練機で成形に適した土の硬さに調整し、製作に必要な分量を用意します。

根地付け

電動ろくろで成形するため、完成に必要な分の土を必要な丸の大きさに盛ります。

成形

完成図面を確認し、厚みを均一にしながら上に伸ばしていきます。最後にメジャーで大きさを確認し、後で各パーツをつなげるために上部をフラットにカットしておきます。

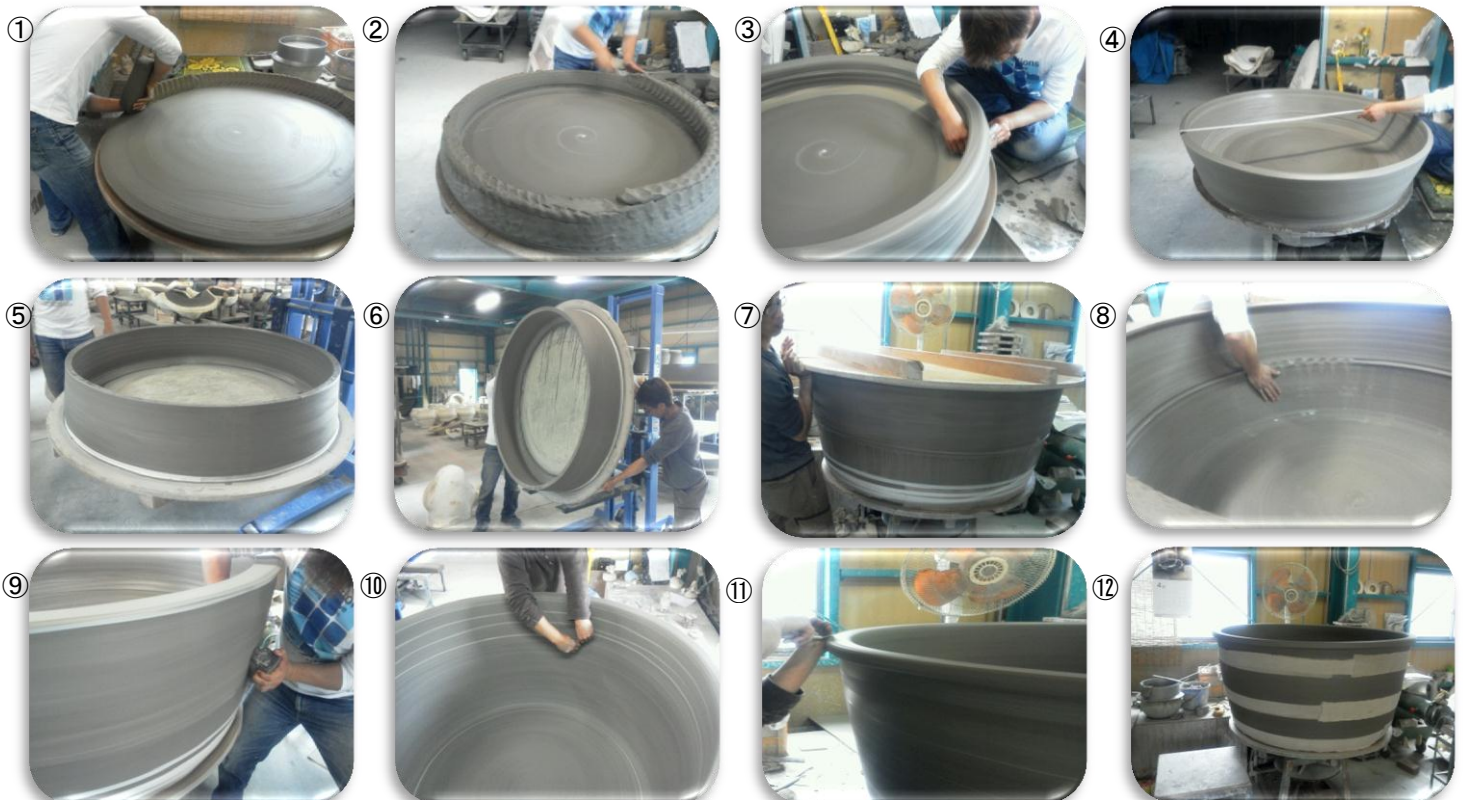
つなぎ

下パーツの上部をつなぎやすくするために土をつけてフラットにし、上パーツをのせます。つないだ部分を木ごて等で締め、最後に上下が馴染むように絞った布を巻き付けておきます。※つなぐ時は逆さまにのせるため、成形時にはそれを考慮した正確な技術が要求されます。

仕上げ

使う人が怪我をしないように細心の注意を払い、プラ板等でなめらかに仕上げます。

＜製造工程の様子＞



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

②手ひねり成形品

造形技術を駆使した置物系商品を中心に展開しています。陶器浴槽（小判型）等、大きい物も成形可能です。信楽の中でも、1疋を超える大型狸を製作できる数少ない窯元です。



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

②手ひねり成形品<生産工程>

陶土準備

手ひねり成形品用の土を土練機で成形に適した土の硬さに調整し、製作に必要な分量を棒状に用意します。

成形

棒状（大きさによっては紐状）の土を完成の形状に合わせて上に積み上げていきます。1つ積み度に厚みを均一にし、形状を整えます。

※造形物の場合、写真等を見て完成時の全体的なバランスも考慮しながら成形するため、技術と感覚が要求されます。

仕上げ

物によって細部の仕上げを行います。この工程がお客様の要望に限りなく近づけるための重要な工程となります。※動物の場合、毛並を入れる、特徴を見つけ表現するなどの作業をします。

《製造工程の様子》

①



陶土準備

②



成形 1

③



成形 2

④



仕上げ

造形物の場合、写真等を見て完成時の全体的なバランスも考慮しながら成形するため、技術と感覚が要求されます。

動物の場合、毛並を入れる、特徴を見つけ表現するなどの作業をします。

角をつくるには高度な技術が必要です。

4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

③機械ろくろ成形品

洗面鉢・プランター等、同一の製品を量産する商品を中心に展開しています。小さい製品は 15 cm から大きい製品では 70 cm ぐらいの製品を中心に製作しています。



同じ製品でも、施釉によって異なる印象の製品となります。



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

③機械ろくろ成形品<生産工程>

陶土 準備

機械ろくろ成形品用の土を土練機で成形に適した土の硬さに調整し、製作に必要な分量を用意します。

成形

型の大きさに応じて適量な土を型の底に入れ、ろくろの回し型の上端部まで土を引き伸ばします。型の内部形状に沿った鉄のこてを下ろし、型との隙間に土を押し込んでいきます。土の空気が抜け、隙間がなくなったら一旦こてをあげ、ついている土を取り除きます。スポンジ等で内部に水を打ち、再度こてを下ろして締めます。こてをあげ、水を吸い取ります。

仕上げ

型を外してもつぶれない程度にしっかりした頃を見計らい、型を外して滑らかに仕上げます。
※製品によっては表面を削る、帯を付けるといった細工を施します。

《製造工程の様子》

①



②



③



④



量産が可能です。

⑤



⑥



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

④型押し成形品

石膏型を使用し、置物（狸・ふくろう等）の商品を中心に展開しています。お客様からの要望に合わせて、様々なパーツをつけていくことで、個性豊かな製品に仕上げていきます。



お客様からの要望により、仕上げて徳利や帽子などのパーツをつけて、個性豊かな製品に仕上げていきます。



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

④型押し成形品<生産工程>

陶土 準備

型押し成形品用の土を土練機で成形に適した土の硬さに調整し、製作に必要な分量を板状に用意します。

成形

石膏型に板状の土を置き、砂袋等で叩いたり指で押さえたりしながら、型の凹凸に沿って土を貼り付けていきます。土の厚みが薄くなった部分には土を盛り、均一の厚みに整えます。
※大きな製品は、型を外した時につぶれないよう、要所に補強として棒状の土を盛っておきます。

型を合 わせる

型を外してもつぶれない程度にしっかりした頃を見計らい、合わせる部分にくっつきをよくするために同じ土で作った泥を塗り、その上に土をつけフラットにし、型を合わせます。内側から合わせ目を押さえ、他の部分と厚みを揃えます。

仕上げ

型を外し、合わせ目をしっかりプラ板等で撫で、合わせた部分が目立たないように細工を施します。製品によっては必要なパーツ（狸の場合、手・耳等）をつけ完成させます。

《製造工程の様子》



4. 事業内容

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

⑤共通の作業

乾燥

土の水分がなくなるまで乾燥させます。急激な乾燥は傷がでる恐れがあるため、室内で自然にゆっくり乾かします。季節や製品の大きさによって、乾燥速度が変わるため、なるべくゆっくり乾燥するように工夫しています。

施釉

乾いた製品に釉薬をかけます。
筆やスプレーガンを使用して、パーツごとに色を付けていきます。

焼成

製品を窯で焼きます。ガス窯でゆっくり温度を上げていき、1250℃で焼きあげます。大きい物が多いため、3日かけて焼きあげ2日かけて冷まします。

窯出し

窯から製品を出します。
出荷できるよう、傷等を確認しながら窯から製品を出します。



彩施



窯詰め



焼成



窯出し

5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

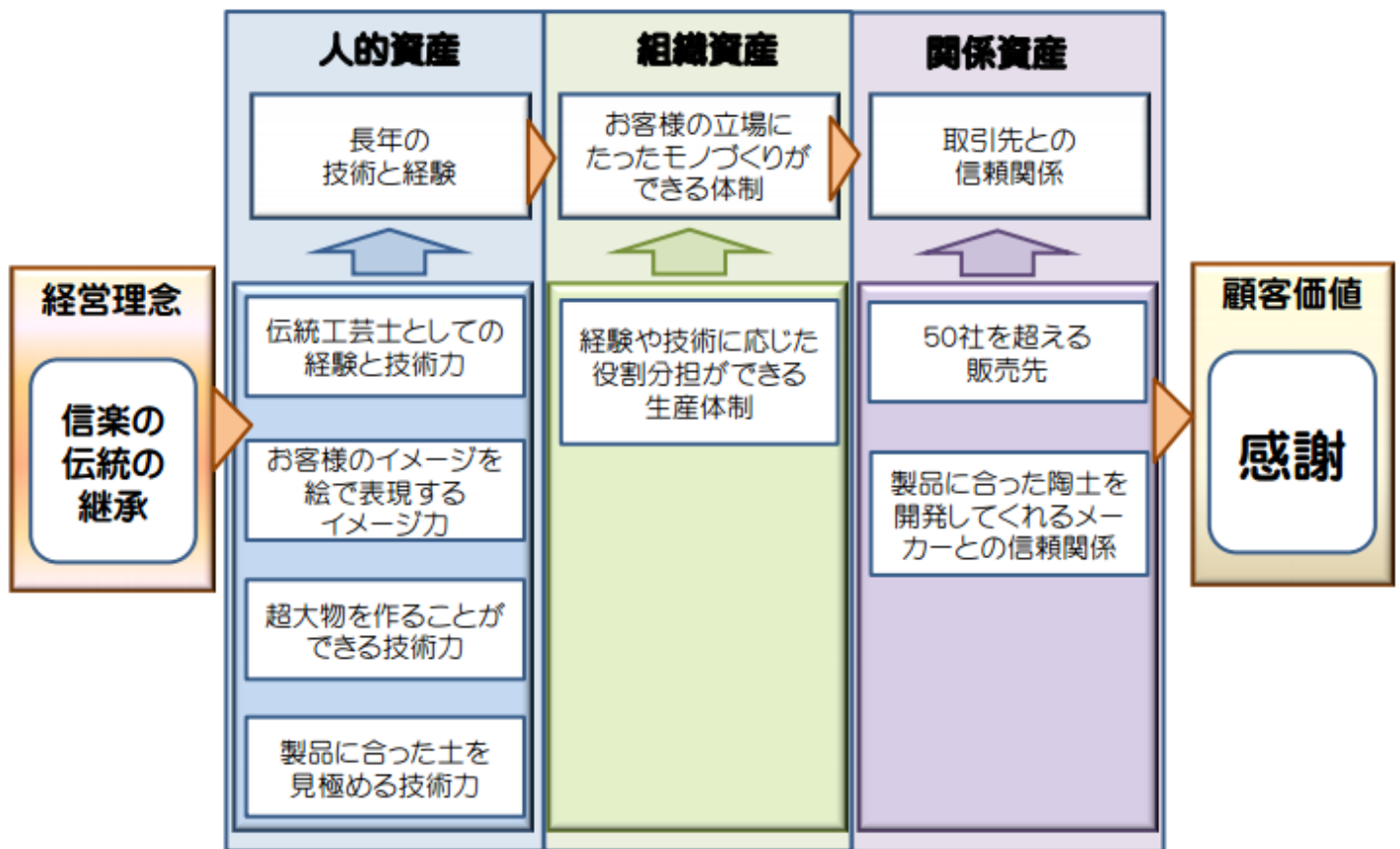
問い合わせ先

私たちは過去から現在にかけて蓄積した強み、すなわち知的資産を通して、信楽の伝統を継承していくことで、信楽の地域とお客様との出会いを大切に、「感謝」の気持ちをお客様にお届けしています。

知的資産は、お客様に提供する価値を実現するための原動力となる「目に見えない真の強み」です。私たちの知的資産（人的資産、組織資産、関係資産）は次の3つです。

- ①長年の技術と経験
- ②お客様の立場にたったモノづくりができる体制
- ③取引先との信頼関係

知的資産による価値創造ストーリー



知的資産の3分類

人的資産とは、「モチベーション」や「行動特性」、「経験」など人に帰属する資産のことです。その人が退職などで会社から離れると失われる資産です。

組織資産とは、「組織の柔軟性」や「データベース」、「企業文化」などを指します。人に依存することなく、組織として有している資産です。

関係資産とは、「関係会社」や「顧客」、「ブランド」などステークホルダーとの間に築きあげた資産のことです。自社とステークホルダーとのかかわりの中で、蓄積されている資産です。

5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《人的資産》長年の技術と経験

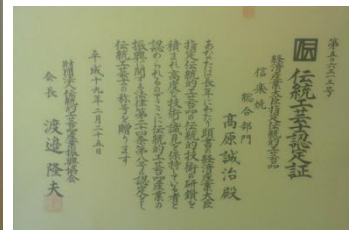
■特長

陶器屋では3名の職人が過去から現在にかけて蓄積した強み、すなわち知的資産を通して、「信楽」と地域とお客様との出会いを大切に感謝の気持ちをお客様にお届けしています。

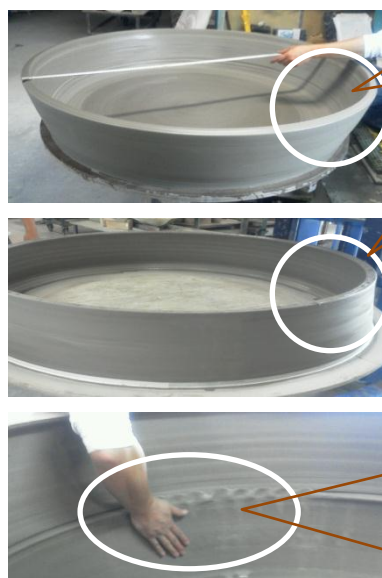
陶器屋代表の高原誠治は数少ない大物ろくろの成形技術をもつ伝統工芸士です。今後の信楽焼きを担う若手として頑張っています。



信楽には数多くの窯元がありますが、当社はその中でも数少ない大物ろくろ製品を作る窯元として、信楽の地に生まれたことを大切に、信楽の伝統を守っています。また、「できない製品はない」「どんなに難しい技術でも出来て当たり前」を信条に常に技術力の向上に努めながら製品づくりに励んでいます。



30 cm以上の製品を大物といいます。当社では高原が中心となり、1 m以上の超大物を製作できる数少ない窯元です。超大物の浴槽を製作する場合、上下を二つに分けて作り、後で上下をつなぎます。その時につなぎ部分のサイズを、上下を変えて製作します。これは、つなぎまでの時間経過により大きさが変わってくるからです。素地を作る段階で時間の経過による大きさを考えて製作しなければ、つないだ時に補正する必要があり完成したときにきれいに仕上がりにません。この大きさの変化は、21年の陶器を作ってきた経験と知識、伝統工芸士としての技術があるからこそ分かるのです。この経験と知識、技術が、ご注文いただいたお客様の満足となり、次のご注文に繋がっています。



下の部品をつなぎ目は大きめにする。時間がたつと縮む。

上の部品をつなぎ目は小さめにする。時間がたつと広がる。

つないだ後に上下のつなぎ目が分からないようにする。この時に上下の大きさの違いが大きくと完成したときにつなぎ目が分かる。上下のサイズをできるだけ同じにするには、長年の経験と高い技術力が必要。

5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

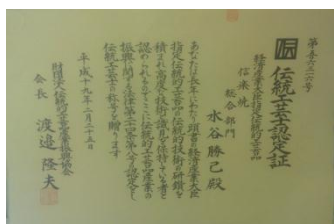
今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《人的資産》長年の技術と経験

お客様と話をしながら製品のイメージを膨らませていきます。ご要望によってはイメージした内容を図や絵に表わし、お客様と打合せをすることもあります。お客様がどういうものを求めているか、お客様の想いを大切にしながら、製品づくりを行っています。出来あがった製品を見た時のお客様の笑顔が一番うれしいです。



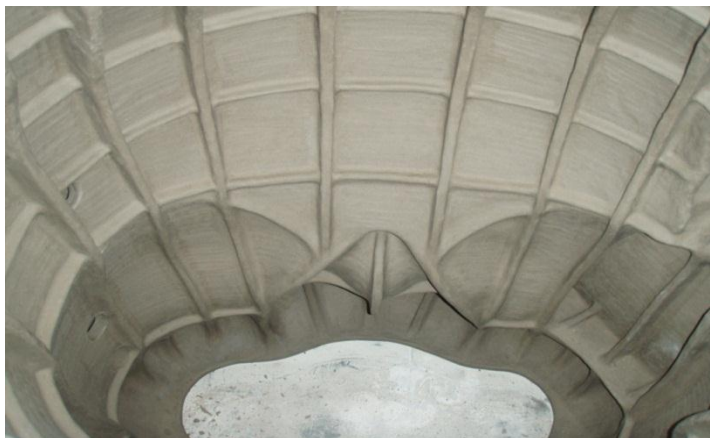
水谷勝己（双芳）は手ひねり成形で高い技術力を持つ伝統工芸士です。



《実績》

- ・大阪花博 特別賞受賞（唐橋と浮み堂）
- ・大たぬき（7尺）作製・オーサカキング（七福神狸）作製

大物を手ひねり成形で製作する場合、作っている途中で崩れてしまわないように通常は厚みを厚くして製作します。しかし、厚くすると乾燥時に割れたり、焼きの段階で破裂することがあります。また、完成品が重くなり移動も大変になります。一方、厚みが薄いと焼きが入ることによって強度が強くなり割れにくくなります。そのため、当社では、厚みを25mmから40mmで製作していますが、厚みを薄くすると製作段階で崩れてしまう危険があります。そのため、下の写真のように内部に補強を行い、崩れない工夫を施しています。大学からも教えてほしいとの要請がある、他社ではマネのできない技術です。



5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《人的資産》長年の技術と経験

澤井邦浩は機械ろくろ成形品を中心に製作を行っています。



自分が買う立場になって、「自分が買わない製品は作らない」をモットーに、細部にもこだわった製品づくりを心掛けています。

また、陶器づくりには土がとても重要です。同じ製品を作っても、土によって仕上がりが違ってきます。陶器用の土を製造している会社での経験から、感覚ではなく理論から土による製品の違いが分かる強みを活かし、当社での土の調合などを担当しています。

外がいくらきれいに仕上げられていても、底や内部の仕上げが不十分だと、置いた場所を傷つけたり、けがをする危険があります。従来の型押し製品は、底や内部までなめらかに仕上げている製品は多くはありません。安価な輸入品なども内部までこだわった製品は数少ないのが現状です。しかし、私たちは「自分が買いたくない製品は作らない」を基本に、見えない部分までこだわり自分が納得できる製品づくりを行っています。



仕上げ前



仕上げ後

5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《組織資産》お客様の立場に立ったモノづくりができる体制

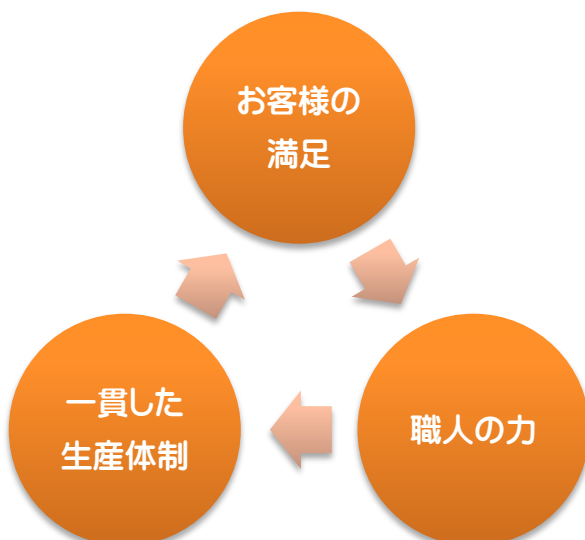
■特長

陶器屋では3名の職人がそれぞれの持ち味を生かしてモノづくりを行っています。それぞれの経験や技術に応じた役割分担により、機械ろくろによる量産品から手ひねりによる特注品まで生産できる体制があります。また、材料調達から焼成や最終的なチェックまでを内部で行うことで、お客様の様々なニーズに応じた製品を作ることが可能となっています。

一貫した生産体制



当社では機械ろくろ成形品、型押し成形品、大物ろくろ成形品、手ひねり成形品による製品作りを行っています。それにより、量産品から特別注文品まで幅広い製品づくりが可能です。この幅広い製品づくりを可能としているのは、3人の職人がそれぞれの持ち味を生かした製品づくりを行っているからです。3人の職人の得意とする分野に応じて役割を分担し、また、協力しながら製品を作っていくことで、お客様の要望に、より近い製品を作ることが可能となっています。さらには、陶土の準備から焼成、最終チェックまでの全工程を内部で出来る体制を整えることで、納期の短縮やコスト面、品質面でもお客様に安心していただける製品づくりが可能です。3人の職人の特徴を活かした製作と一貫した生産体制が良い製品づくりとなり、その結果がお客様の満足へと繋がっています。



当社が保有している窯です。この窯があることで、機械ろくろ成形品から大物ろくろ成形品まで、様々な製品を焼くことができ、お客様の多様なニーズに対応することが可能です。

5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《関係資産》取引先との信頼関係

■特長

陶器屋は、陶土メーカーや信楽窯業技術試験場などの外部のネットワークとの信頼関係を構築し、協力することで、お客様の求める製品づくりを行っています。これにより、取引先は50社を超えています。中には、陶器屋となる以前から15年以上お取引のある販売先や、精密さが要求される遺跡からの出土品を扱う取引先もあります。

お客様の声

(株)アコード 野口尚志さま

当社の社長の趣味が焼き物だったのですが、その社長の先生の紹介で4年前から取引をさせていただいています。

当社では、遺跡からの出土品の復元や展示品を取り扱っていますが、これらの製作にはとても高い技術力が要求されます。また、現代と昔では土が違います。そこで、陶器屋さまと取引のある陶土メーカーに土づくりからお願いしています。技術面でも現代とは大きく違うため、当時と同じような製品はできません。その点、陶器屋さまでは形から風合いまで、出土品とほとんど変わらない製品を作っていただくことができます。代表の高原さんの大物を扱う技術と水谷さんの造形の技術がなければ、当社が扱っている出土品の復元や複製はできません。陶器屋さまは当社の製品には欠かせない存在となっています。また、陶器屋さまの窯は信楽では一番大きな窯です。大型の窯は使い慣れていないと色むらが出来たりして扱いが難しいのですが、陶器屋さまでは、入れる場所を考え、当時と同じ色合いが出るように工夫するなど、細かい点まで気を配った製品づくりを行っていただいています。



(株)アコード 野口さまと当社代表の高原

これらは陶器屋さまに復元していただいた出土品の複製品です。本物に近づけるためには高い技術が必要です。



5. 当社の知的資産

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

お客様の声

(株)千の恵 坂北千恵さま

当社で開発した「ドリーム水槽」の本体を製作していただいています。陶器屋さまは、私の考えていることを形にしようとして、いろいろと調整し実現してくれます。でも、出来ないことは「出来ない」とはっきり言ってくれます。その時でも、どうして出来ないかきちんと説明してくれるし、どのようにしたら良いかを助言してくれるので納得できます。それが陶器屋さまに対する信頼に繋がっています。

この「ドリーム水槽」は「平成21年度 金沢ブランド優秀新製品」に認定されました。これも、陶器屋さまのご協力があったからだと思います。



(株)千の恵 坂北さまと当社代表の高原



(株)千の恵さまと共同開発したドリーム水槽

水槽本体を当社で製作しました。水漏れや生き物に影響のない釉薬を使うなど、細かい点に気を配っています。本体部分の製作には当社が得意としている大物製作の技術が、カエルなどの飾りには造形の技術が活かされています。

《代表の高原から》

お客様はいろいろなことを考えられていて、その考えを形にすることの難しさをいつも感じています。でも、少しでも理想に近づけるように努力をしていき、お客様の想いを形にいくことが大切だと考えています。その結果が長年の取引に繋がっていると思います。

全ての取引先様に対して、お客様の想いを形にし、ご満足いただけるように努力しています。



全ての取引先様と当社の関係は歯車だと考えています。それぞれの歯車がかみ合っこそ、お客様にご満足いただける製品を作ることができると思っています。

6. 今後の事業展開

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問い合わせ先

《当社にとってプラスとなる市場や顧客の状況》

- ・一般消費者の消費動向が「低価格」商品を好む傾向がある一方で、「こだわり」に対しては「多少高くても買う」という傾向もある。また、品質についても、価格に関わらず、良い物を求める傾向がある。
- ・消費者の好みが多様化しており、自分に合った「こだわり」の商品を選ぶ傾向がある。自分に合わない商品については、価格が安くても購入しない傾向がある。
- ・信楽焼産地で、超大物を製作している窯元が少なくなっている。

《当社にとってマイナスとなる市場や顧客の状況》

- ・信楽焼の生産額は年々減少し続けている。そのため、メーカー、問屋の倒産・廃業が相次ぎ、生産地としての状況は厳しい。
- ・若手の職人が少なく、後継者が不足している。
- ・量産品については、中国をはじめとするアジア諸国からの輸入品が低価格で市場に多く出回っており市場全体の価格下落の原因となっている。

今後のビジョン（3年後の目指す方向）

信楽焼の窯元として今後も事業を継続するために

- ・お客様のニーズに合った「こだわり」の誰にもマネの出来ない自社商品を開発する
- ・若手の職人を育成する

土から焼きまで出来る信楽焼きの窯元として、信楽のイメージを大切にし、伝統を守りながら新しいことに挑戦する企業となる。

6. 今後の事業展開

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

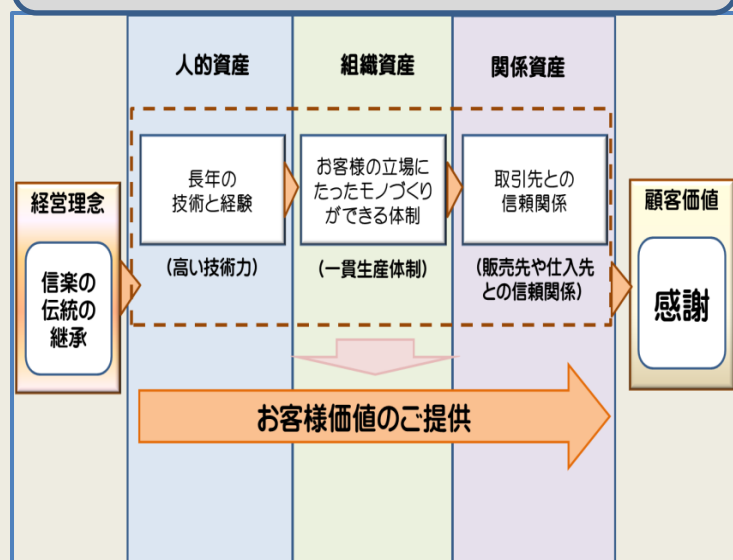
今後の
事業展開

企業概要

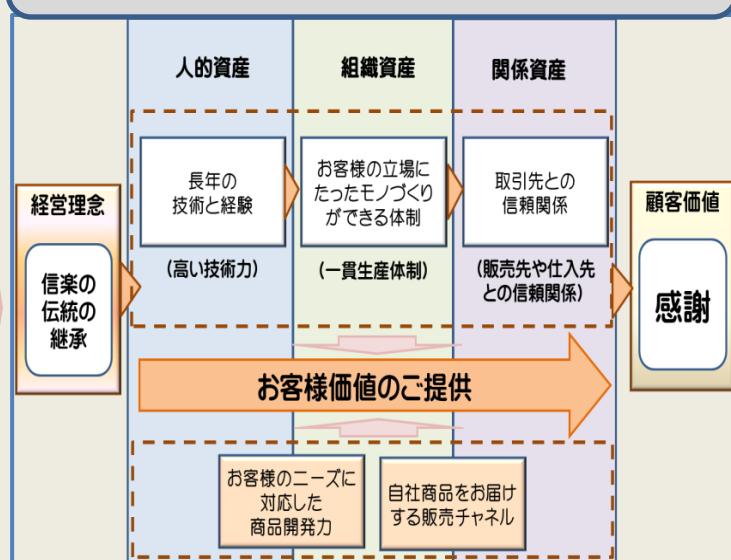
問い合わせ先

3年後に保有すべき知的資産

過去から現在までに蓄積した知的資産
(2012年12月現在)



今後のビジョンを実現するために必要な知的資産
(2015年12月現在)



課題: 3年後のビジョンを実現するために

《商品開発力の強化》

・お客様のニーズや市場の動向を把握し、お客様が求めている質の高い「こだわり」の商品を開発することが必要です。

《新たな販売チャネルの確保》

・一般消費者へ直接接するのために、小売店や一般消費者へ直接販売できるチャネルを確保する必要があります。

《若手人材の育成》

・若手人材の育成により技術の伝承を図り、陶器屋としての継続的な発展を目指します。

解決策

- ・展示会への参加により、市場のニーズや消費者動向の把握に努めます。
- ・自社オリジナル商品の展示会への出展により、小売店との関係性を構築します。
(展示会への出展: 年1~2回目標)
- ・ホームページを開設し、自社の取組みや自社商品の情報発信を行っていきます。
(ホームページ開設予定: 2013年)
- ・信楽窯業技術試験場出身の若手人材を採用し、技術の継承を図っていきます。
(目標: 2015年までに2~3名を採用)

7. 企業概要

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問合わせ先

屋号	陶器屋
代表者	高原 誠治（信楽焼伝統工芸士）
従業員	5名
事業内容	信楽焼製品の製造・販売 大物ろくろ成形品・手ひねり成形品・機械ろくろ成形品・型押し成形品
住所	〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山1500 TEL：(0748) 82-1008 FAX：(0748) 82-3325

当社ではこれまでにご紹介した商品以外にお客様のご要望にお応えし、様々な商品を製作しています。下記は一例です。



8. 問合わせ先

代表から
皆さまへ

経営理念

信楽焼

事業内容

当社の
知的資産

今後の
事業展開

企業概要

問合わせ先

知的資産経営報告書に関する問合わせ先

陶器屋 （とうきや）

担当者：澤井 邦浩

TEL：（０７４８）８２－１００８

FAX：（０７４８）８２－３３２５

①知的資産経営報告書とは

「知資産経営」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

②本書ご利用上の注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込などは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来にわたり当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施または実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保証するものではないことを、ご了承ください。

③作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次にあげる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

中小企業支援ネットワーク機関

滋賀県中小企業団体中央会 中嶋 和繁

中小企業支援ネットワーク強化登録専門家

中小企業診断士 石川 由美子